住宅金融公庫では、自分が住むための住宅を新築する方に対して個人住宅建設資金の申込み受付けを次の要領により行っています。

◇受付期間
4月30日（水）～5月20日（火）

◇選定方法
先着順により無抽選で選定します。

◇融資額
木造住宅（八〇㎡以上）の場合四一〇万円～四三〇万円。
老人（六五才以上）等が同居する場合五〇万円～一五〇万円の「住宅建設場所と同一県内融公庫業務取扱店」と表示した金融機関
※詳しいことについては、お近くの公庫業務取扱金融機関でご相談ください。

◇返済期間
木造の場合二五年以内

◇申込場所
住宅建設場所と同一県内の「住宅金融公庫業務取扱店」と表示した金融機関
※詳しいことについては、お近くの公庫業務取扱金融機関でご相談ください。

◇利率
年　五・五%

個人住宅建設資金融資の申込み受付け中です

住民税の控除額が引上げられます

税法改正により昭和五十五年度分住民税より次のように改正されます。

（　）は現行

基礎控除
二十二万円（二十一万円）

配偶者控除
二十二万円（二十一万円）

扶養控除
二十二万円（二十万円）
老人扶養控除（70才以上）は二十三万円（現行二十一万円）ですが、同居している老人扶養控除は二十六万円となります。

障害者控除
二十一万円（十九万円）
特別障害者（重度の障害者）は、二十三万円（現行二十一万円）になります。

老年者控除
二十一万円（十九万円）

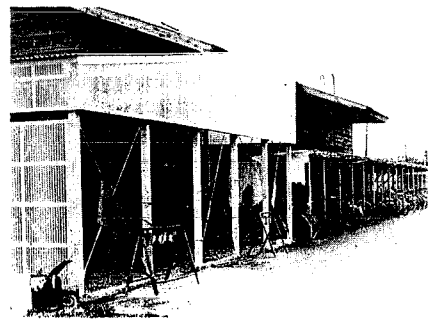
寡婦控除
二十一万円（十九万円）

勤労学生控除
二十一万円（十九万円）

均等割額
町分千円（七百円）
県分三百円（三百円）

国民健康保険税
課税限度額が二十四万円（現行二十二万円）に引上げられます。

整理整頓をお願いします
矢代田駅自転車置場



矢代田駅構内、既設の自転車置場の隣りに建築された鉄骨づくりの自転車置場

矢代田駅の現在の自転車置場の南側に、新たに約六十台収容の自転車置場を建設しておりましたが、この程完成しました。
通勤、通学者の方は大いに利用して下さい。
駅の自転車置場はみんなのものです。お互いに整理整とんに心がけて上手に利用しましょう。

ご利用ください
地方産業育成資金

中小企業者に対する金融の円滑化を図るため「産育」で皆さんから親しまれているこの制度をもっと活用してください。借入者がいつも決まっていますが新規の借入者をお待ちしています。
この資金の貸付条件等は次のとおりです。

○貸付限度額
一企業三〇〇万円以内

○貸付期間
二十四ヶ月以内

○貸付利率
年　六・七五%（保証付年　六・二五%）（分割弁済）

○融資金融機関
第四銀行、相互銀行、協栄信用組合の各小須戸支店
詳細は役場振興係又は商工会までお問い合わせください。

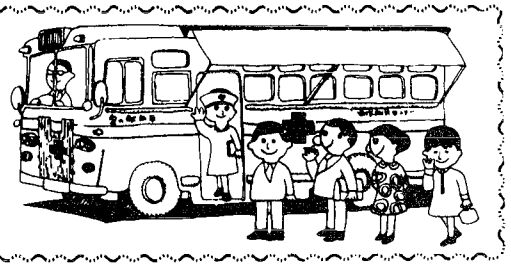
停電のお知らせ

5月7日（水）
13時30分～16時30分まで
（区域）
若葉町一、二丁目の一部
新町二、三、四丁目
雁巻町一丁目

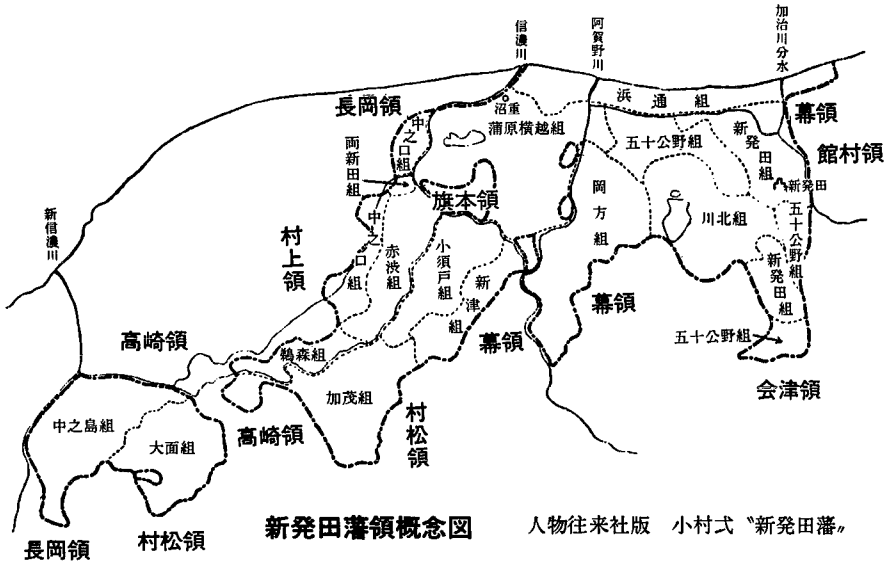
5月7日
戸籍関係の証明願は午前中に申請を

五月七日は午後一時三〇分から四時三〇分まで役場附近が停電となるため、当日は戸籍関係の証明願は午前中に申請されるようお願いします。

献血にご協力をお願いします
移動採血車「ゆうあい号」がきます
とき　5月6日（火）
ところ　役場前
AM 10:00～12:00　PM 1:00～3:00



郷土だより
小須戸郷史（しんさん家）(11)



新発田藩領概念図　人物往来社版　小村式〝新発田藩〟

大河・信濃川（五）
新発田藩・小須戸組・新津組
初代藩主秀勝

濃尾平野には戦国時代の歴史に関係の地名や、大名発生の地が多い。尾張国中島郡西溝口村（現在愛知県稲沢市）。新発田藩初代藩主溝口秀勝は天文十七年（一五四八）ここに生まれ、地侍として丹羽長秀の家臣となる。長秀、織田信長の信望厚く、信長の戦うところ常に一方の頭として闘う。溝口勝秀もこれに従い天正九年（一五八一）信長・長秀より若狭国高浜に封ぜらる。溝口氏擡頭のはじまりである。翌年本能寺の変発生。長秀・秀吉、柴田勝家とくみすがやがて秀吉と柴田が対立。さらに翌年賤ケ谷の合戦が始まり、先輩である長秀が後輩の秀吉に協力、溝口秀勝も加賀に出陣。猛将柴田勝家、北の庄に自害して一条の煙と消え、論功行賞により長秀北の庄百万石を得、溝口秀勝も四万四千石を得、加賀大聖寺に居る。攻撃和議、同盟等血醒い戦乱の世、秀吉は最後に佐々成政を滅し天下統一者としての地位を固める。秀吉、秀吉の心中に飽き足らず切腹するが、勝秀、秀吉に従い、秀吉より知行宛行状をうけ丹羽家より離れ、秀吉の家人として独立大名となり、丹羽氏のあとをうけて北の庄（福井）の城主となって堀秀治の与力となる。勝秀三十八歳の時であった。後、秀吉の島津攻め、小田原攻め、朝鮮攻めに、いずれも参加。慶長三年（一五九八）正月、上杉景勝会津に移され、代って四月、堀秀治越後に入り、勝秀も加増六万石をもって新発田に入る。入国後越後一揆の鎮定に当たり、以後着々と新発田藩統治を固めていく。

新発田藩の重農主義

歴代新発田藩の伝統政策は徹底して重農主義であった。一時は長岡藩牧野氏の新潟港領有に対し、沼垂港をもって競争の地位に立ったこともあるがこれも断念。専ら蒲原平野の開発に任じ、各所の潟の埋立、河川の掘切による治水と新田開発に意を注ぐ。石高増加では幕末の書上十三万九千石余、実際には二十万石ともいわれている。新田の増加は、寛永、明暦をピークとして、延宝三年（一六七五）まで実に一七四ヶ村。日本最大の新田増加である。信濃・阿賀・加治の三大河川の乱流と白蓮潟・福島潟・紫雲寺潟をはじめ大小の湖沼の散在する水害常習地帯に、慶長以来二七〇余年続いた、転封のない越後でただ一つの藩である。

新発田藩の郷村支配

新発田藩では最初地方（じがた）地行制をとり、一部を蔵入地（藩主の直接支配地）とし残りを家臣団に土地であてがった。慶長十年の「給知方村々高目録」（「新発田藩史料」）中に小簾戸・新保・横川浜・小向・水田・矢代田の五つの村名が見えるところから、その最初は小須戸地内も誰かの知行地であったことは間違いないが、その氏名は不詳である。やがてしだいに藩主の蔵入地が拡大し、慶長十七年には四つの組（蔵入地）しかなかったものが、寛永末期には全領的に組制がしかれ、藩主の領主権が直接的に全領に及ぶようになった。上の図は細かい部分にまで精密に至っていないが、ほぼその時点を表わした図であり、それをさらに左の大きな組名でよんでもいた。

三組―新発田・五十公野・川北組
岡方組（陸田地帯）
山嶋組―新津・小須戸・加茂・大面組
嶋通組―蒲原横越・中之口
赤渋・鵜森・中之島組
両新田組―鷲之木・塩俵
浜通組―北蒲海岸一帯
沼垂・新発田は検断を置く

小須戸組・新津組

○慶長十五年成立といわれる「給知方ほど役帳」に新津組が初見され、現在小須戸地内は全部これに含まる。
○寛永十六年（一六三九）新津組を分け左の小須戸組をおく。（村称略）2・3
小須戸・新保・小戸新田・荻島新田・鵜出古木・古津出戸・中野新田・水田・西島・四ツ興野・車場新田・小向・子成場・蔵曽根・市之瀬・横川浜・梅ノ木・川口新田・覚路津新田・龍玄新田・新鹿新田・結新田・矢代田・天ケ沢新田・鎌倉新田は新津組にのこる。2・3
○元文・延享年間小須戸組新津組に含まれ後独立。年数諸書にあれど未詳。3・4
○寛政元年（一七八九）藩領・新発田領の上知替えにより矢代田は幕領水原代官支配となり、鎌倉新田・天ケ沢新田は新津組となる。矢代田はその後、寛政十二年出雲崎代官所支配、弘化四年（一八四七）桑名藩預り柏崎代官支配となる。1・3・5

注　数字は左の参考文献名

1　新発田市史資料「新発田藩史料」
2　真柄家旧記（新津市）
3　小林存編「新津市誌」
4　新発田藩・月番日記
5　「中蒲原郡誌」